

千葉県商業専門店協同組合連合会

会長 鈴木重夫



【商専連の沿革】

千葉県商業専門店（協連）は昭和43年11月、それまで任意団体として県下の月賦販売組合の連合協議会として10年あまり活動していたが、当時の大型月賦百貨店の進出に対抗するために県内の17組合で法人化した「千葉県信用販売協同組合連合会」としてスタートした。その後平成2年には商品券やスタンプ、ポイントカードなどの販売促進対策と消費者サービスの向上等の研究を行うために現在の名称に変更した。鈴木重夫氏は安田誠之助（館山）、武井栄（八千代）、川村佐平次（成田）、板倉敬一（浦安）、福島信治（館山）氏に次ぐ6代目の会長。

【協】

佐原信販の概要と鈴木さんの横顔
「お江戸見たけりゃ佐原へ（ござれ）」と俗謡にまで歌われた佐原は利根川水運でひらけた下総最大の河港都市

で、町中を流れる小野川沿いには蔵づくりの千本格子の商家がならなり、昔をしのばせる河岸風景は今でも情緒漂う町である。

（協）佐原信販は昭和27年6月に52名の組合員により県下で最初の信販組合として発足した。現在の主な事業は、クレジット、商品券、ポイントカード、損害保険の代理店業務等。ポイントカードは国・県・市の補助金を得て平成11年3月にスタート。現在の発行枚数は1万5000枚だが、何とかしてこれを3万枚にもつていきたいとのこと。ポイントカードに関する販促イベントは毎月実施され、お客様の好評を得ている。こ



左より石毛事務局長、鈴木理事長、小松副理事長

■ 千葉県商業専門店（協連）

所在地	千葉市中央区千葉港4-2 (千葉県中小企業団体中央会内)
代表者	鈴木 重夫
会員数	6名 (出資金80万円)

■ (協) 佐原信販

所在地	香取市佐原イ525
代表者	鈴木 重夫
会員数	63名 (出資金1,020万円)

の運営を担当しているのが小松副理事長で、年間を通しての企画を立てるのが一苦労だそうだ。

鈴木さんは地元の学校を卒業した後、千葉市内の呉服屋さんに15年間奉公した後、お父さんが起こした紳士・婦人用品の店「つる治」に入社し現在はその代表者。

組合では昭和55年に理事に就任以来副理事長、理事長を歴任し、この間、卓越したリーダーシップを発揮して組合の事業領域の拡大を図り、現在の組合の基盤強化に尽力してきた。

鈴木氏はこの他、佐原商店街連合会の会長を歴任、現在は商工会議所の常議員と地元と県下の商業振興に尽力している。このように、地元商業の振興にあらゆる努力を傾注しているが、決め手がないので一向に明るさが見えてこないとのこと。

趣味などをお伺いしたところ、自分の商売と地元商業振興のために毎

日頭が離れないとのこと。特に昨年の3月末に佐原市が山田、栗源、小見川の各町と合併して香取市が誕生したのを機に、共通商品券やポイントカードの統一を図り、更なる飛躍を図りたいとのこと、その道筋を立てるのに苦労しているとのことでした。

昭和17年佐原市生まれ。ホテル関係に就職しているご長男は既に独立。奥様とお嬢様の3人で香取市に在住。



▲事務局員、左後方が片野さん、右手前が及川さん



▲小野川に架かる忠敬橋



▶老舗が並ぶ町並み